

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300261		
法人名	有限会社 川合		
事業所名	グループホーム 和 (南ユニット)		
所在地	静岡県浜松市浜北区東美蘭 66		
自己評価作成日	平成21年11月11日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう職員全体で考え、身体機能の維持向上が図れるよう日課としている散歩のほか、利用者一人ひとりの思いや状況を考え、さりげない支援を心がけている。利用者職員がいっしょに生活する場であるという考えから、大家族のような雰囲気があり、利用者のご家族にも信頼を受け連携がとれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念である「ともに支えあい その人らしい 安心した生活を」を職員全員が理解している。それを踏まえ、各ユニットの職員全員がユニットごとに目標を作り、自分達の言葉で理解、共有し実践している。その中で特に利用者や家族との関わりや地域との連携を大切にしており、事業所全体の雰囲気は明るく、利用者職員との信頼関係を向うことが出来る。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2278300261&SCD=370>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 モア設備設計事務所		
所在地	静岡県静岡市葵区昭府1丁目8-35ツキチ商事ビル4F		
訪問調査日	平成21年12月4日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を職員全体で共有し、その大切さのもとに、日常のケアに結びつけている。	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認、共有している。その理念をユニット毎に実践しやすくするため、目標を定め取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩に出かけ、地域の人たちと気軽に声を掛け合っている。また、畑の作物を差し入れしてくれる方もいる。	自治会に属し、地域の一員として認められている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のおたよりを自治会を通じ回覧し、地域の方に事業所の様子、認知症や介護についての啓発に努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所のサービスの取り組みや評価結果を報告し、意見を聞き、サービスの向上に活かしている。	定期的開催され、事業所での取り組みや現状を伝え、活発な意見交換をしている。	今後は地域包括支援センターを交え、より一層の地域との連携を期待する。また、ユニットでの取り組み状況や目標を決めた経緯をより多くの人に伝え、サービス向上への取り組みが理解されることを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市担当者へ出席していたり、介護相談員が来所された際にも利用者の生活ぶりやケアの取り組みを伝え、連携を深めている。	市担当者も積極的に会議に参加し、情報提供やサービスに関する意見交換を行い、連携を深めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で身体拘束に関する勉強会を実施し、職員全体で共通認識を持ち、日常のケアに取り組んでいる。	「身体拘束をしない事が当たり前」という意識が全職員にあり、実践されている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議などで話し合ったり、関係書類を配布するなど、職員の意識向上に努め、見過ごされることがないように、職員がお互いに注意を払い、呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度が必要な利用者はおらず、管理者と一部職員が理解しているにとどまっている。今後、このようなケースが起こりうるので、事業所の勉強会などで、学ぶ機会をつくりたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する方針や取り組み、重度化や看取りについての方針、医療連携体制などについては、不安のないよう十分な説明をおこなっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、おたよりや訪問時に利用者の様子を伝え、家族会や訪問時に要望を聞くよう努めている。出された要望は会議で話し合い、運営に反映させている。	家族会や面会時に、家族からの要望や意見を聴き、その内容について職員会議にて話し合い、運営に反映している。	出された意見や要望について、対応の経過や結果の報告の機会が増えることを期待する。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、勉強会、面談などで、職員に意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。また、皆が意見を言えるような雰囲気作り心がけている。	施設長が6ヶ月に1回、個人面談を実施している。また常に職員からの相談等を受ける体制が整っており、職員の意見が反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に現場にきて、職員の業務や悩みを把握している。職員が向上心を持って働けるよう人事考課も行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にはなるべく多くの職員が受講できるように計画している。また、研修報告を勉強会にて発表し、全職員が共有できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとネットワークを作り、見学に行ったり、情報交換をして、サービスの向上にむけた取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービスを開始する前に本人と面談し、心身の状態や困っていること、要望などを聞き、本人が安心していただけるような関係作りに努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族が困っていることや不安なこと、要望などをよく聞き、事業所としてどのような対応ができるか話し合い、関係作りに努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族の思い、状況などを確認し話し合う中で、必要なサービスにつなげるようにしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者から教えていただくことも多く、事業所の理念にもあるように、「共にささえあう」関係を築くよう努力している。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の様子や職員が感じたことを家族に伝えることで、本人への思いを共有し、共にささえる関係を築いている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近所に暮らす友人が遊びに来てくれたり、昔から行き付けの美容院に行き続けるなどなじみの関係の継続ができるよう支援している。</p>	<p>友人や知人など、利用者が大切にしてきた人達が訪問しやすい環境を整えたり、利用者が希望する馴染みの場所との関わりを継続できるよう務めている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係について職員が共有し、関係がうまくいくよう職員が間に入って支えるような支援をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた時には、当事業所での生活状況など情報提供をし、本人がこれまでの生活を継続できるようフォローしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりの中で言葉や表情などから、本人の思いを汲み取り、本人の立場に立って何が最良なのかを検討するよう努めている。	職員は利用者の立場に立ち、日々の関わりの中で非言語的コミュニケーションや表情から、利用者の思いを汲み取り、把握するように努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より、本人の生活歴や好きなものなどを聞き、その人をより理解することにより、その人らしい暮らしを続けられるような支援につなげている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、本人のできることできないことを把握し、できることを継続できるよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には、日頃のかかわりの中で思いを聞き、家族には、面会時意見を聞き、職員全体でカンファレンスを行い、介護計画の作成につなげている。	職員は担当する利用者の思いや日頃の様子をまとめ、それをユニット会議で話し合いをしている。また、家族の思いや意見を聴き、介護計画に反映できるようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の身体状況、生活状況、本人の思いが伝わる言葉など、個別に記録し、勤務開始前に確認し、毎日のケアに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の思い、状況などに応じて、通院や日用品の買い物など、必要とされる支援には柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが、安心して地域の中で暮らし続けていけるよう、運営推進会議にて自治会長や民生委員と意見を交換し、ケアに反映させている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医だけでなく、皮膚科や眼科など専門医の治療が、必要に応じて受けられるように支援している。	事業所の協力医以外でも、希望すれば今迄のかかりつけ医への受診が出来る。また、皮膚科や眼科などの専門医への受診も出来るよう支援をしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のかかわりの中で、利用者の身体状況に変化があれば、すぐに看護師に相談し、適切な医療がうけられよう支援している。また、健康管理の面でも相談し、助言を得られる態勢を整えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、本人の支援に関する情報を提供し、家族と協力し回復状況など情報交換をしながら、スムーズに退院できるよう支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化における対応の指針を掲げ、事業所の方針を説明し、本人や家族の意向を聞き、納得した最期を迎えられるよう、医師、看護師、職員が連携を取りチームで支援に取り組んでいる。	事業所の指針を家族に説明し、その上で利用者や家族の意向を確認し、納得した上で終末を迎えられるよう、医師、看護師、職員が連携し、チームで支援に取り組んでいる。	指針を伝えるだけでなく、話し合いの内容も明文化し、職員と家族が終末期に向けての意向を共有し連携する事を期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変に備え勉強会を実施し、職員に周知徹底を図り、マニュアルを作成し緊急時にも適切な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っており、災害時の対策について運営推進会議において話し合い、自治会の協力も得られるよう体制を築いている。	定期的に避難訓練や防災訓練を行い、防災意識を高めるとともに、利用者が安全に避難できる方法を全職員が身につけるよう務めている。	被災時や避難時に地域の協力がより得られる様、地域との協力体制の整備を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定的な声掛けをせず、一人ひとりの人格や誇りを尊重し、その方に合った声掛けや対応を行っている。	年長者として敬意を払い、否定的な声掛けをせず、一人一人の人格を尊重しながら接している。また自己決定しやすい言葉掛けをする様に務めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から汲み取ったり、表情を読み取ったりして本人が決定できるよう声掛けをし、働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何か行動をする際には、必ず声掛けをし、希望がある場合にはそれにそった支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着用する服は本人の意思を確認しながら一緒に選び、自己決定が難しい方には、季節や色のバランスを職員が考慮し支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には、自分で盛り付けをしていただき、職員も同じメニューを同席し食べている。食器洗いなどできる方には、職員と一緒に片付けをしていただいている。	食事は専任の調理師が作るが、主食や汁物は自分たちで盛り付けている。後片付けも職員と一緒に自分の食器を洗い、拭くなど皆が手際よく片付けをしている。また、常に楽しい雰囲気の中で食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、カロリー摂取量を考慮した献立を作っている。また、一人ひとりの食事量・水分量を記録し健康状態にも留意した支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕、できる方には声掛けし行っていただき、できない方にはお茶に浸したガーゼにて、口腔ケアを行い、食べ続けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄状況を記録し、本人の排泄パターンに合った支援を行っている。自立に向け日中は紙パンツ、おむつの使用を減らし、トイレでの排泄介助を行っている。	一人一人の排泄パターンを掴み、さりげなく誘導する事で、トイレで排泄が出来るように支援している。自立に向け、日中は紙パンツ等の利用を減らすよう務めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後も含め、日中はできるだけ多くの水分摂取を心がけ、散歩などで身体を動かしていただくよう働きかけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる態勢を整えており、本人の希望や体調を考慮し支援している。また、入浴剤を使用したり会話をしたりして入浴を楽しめるよう努めている。	利用者の希望する時間での入浴に応ずるなど、今迄の生活習慣に合せた支援を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が、使い慣れた寝具を使用し、清潔保持にも十分注意している。また、日中休みたい時にはいつでも休めるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を見て一人ひとりの薬の把握に努めている。また、薬が変わった時は連絡ノートを使い、職員全員が確認するように努めている。症状に変化があれば、医療機関に伝え、その都度対応している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできることを職員といっしょに行うよう支援している。また、月に1度行事を行ったり誕生会を行い、時には、ドライブや買い物に行くなど変化のある日を提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外気浴や散歩を行い、希望があれば外出ができるよう努めている。行事の時などは、家族にも協力していただき、一緒に出かけている。	天気の良い日は利用者の希望に沿って、日光浴や散歩を行っている。利用者が希望する場所へは、家族と連携し外出できる様、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在、お金を自分で所持している人はいない。希望がある時や外出時には、一人ひとりの力に応じて職員が支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>遠くにいる家族から手紙が来た時は、手紙で返事を書くことは困難なため、職員が介助し電話をすることを支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアーのホワイトボードに、利用者といっしょに写真を貼ったり絵を書いたり、棚の上に季節の花を置いたりして生活感を感じ、居心地良く過ごせるよう工夫している。</p>	<p>共有の空間に、季節感のある装飾をしたり、利用者と一緒を選んで行事や日常の写真をホワイトボードに飾る等して、季節や生活感を感じ、心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアーのテレビの前にソファを置き、利用者が一緒に座り見られるようにしている。また、所々にソファを置き思い思いに過ごせるよう工夫している。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、ベッド以外は家族と相談し、使い慣れたものを置いていただき、居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>	<p>ベッドと床頭台は事業所が用意し、それ以外は利用者と家族が相談し、使い慣れた物を置いている。また、ベッドの習慣の無い利用者へは布団で対応するなど、一人一人が居心地よく過ごせる様に工夫をしている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の身体状況に合わせ目印をつけたり、玄関にスロープをつけ、危険な所は職員が介助し安全で、自立した生活が送れるよう工夫している。</p>		